

龍源寺報

平成31年 正月号

派 心 寺 派
樹 信 樹
住 職 松 原 覺 樹
佛 母 寺 住 職 松 原 行 樹
正 福 寺 住 職 松 原 行 樹
TEL 3451-1853
FAX 3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)
Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

新年におもう

龍源寺住職 松原信樹

今年の一月二十五日に兄の五十回忌を迎える。兄については、父母も祖父母も多くは語らなかつたし、私自身も名前を知っただけで深いことはよく分からない。私がそれを知ったのは、先日、弟の正福寺住職から届いた祖父の法話のテープ起こしの原稿からだった。

「悲しい話ですから急いで申しますが、おもちゃの箱のような棺桶に赤ん坊を入れまして、後でわかつたことではありますが、若い夫婦が両親の写真と、私の寺の観音様の御影を入れまして、手紙を書いて入れたのだそうです。『観音様、右も左もわかりませんから、どうぞ手を引いてやってください。お父さんとお母さんの写真を入れてあげるから怖がらずに行くんだよ』と。……『おじいちゃんわかつておくれよ、花びらは散っても散らないんだよ、それをおじいちゃんに知ってもらうために僕は一生懸命に生きて短い数時間の命を去っていくんだよ、わかつておくれよ』と。わからなければならぬと思いました。どういうことでしょうね。花びらは散っても散らないんです。散っていく花びら

の中に散らない本当の仏のいのちをわかつてくれよということでありましようか」と。

「花びらが散っても花は散らない。」孫の死でこの言葉がストーンと胸に落ちたと泰道和尚は法話の中で語った。泰道和尚や哲明和尚のみた花は昭和四十四年一月の花だった。その花をみるたびに彼らは何を思ったのだろうか。幼い子供の死に直面し、それを受け入れ認め許しながら、布教師という表現者として、自分の悲しみや苦しみをもって、人々に仏法を説いた。

家族を亡くしたり、親愛なる人を亡くしたりして、悲しい思いをした人もいらつしやると思う。人は他の者や世の中からの影響を受け、時にはそれに飲み込まれてしまつて、その飲み込まれた基準で自分を判断し、本当の自分を見失い、自己喪失の状態に陥つてしまう。また、自分の不幸の原因を他者のせいにして、自分がひどい目にあつた原因を世の中に押しつけたりしてしまふ。ただ、どんな大変な時でも、嘘と芝居で身を塗り固めたり、迷信や邪な教えに右往左往されず、自分自身を見失わず生きていきたいと思ひます。

本年も宜しくお願い申し上げます。

寄附

本堂改良工事エレベーター増設工事寄附

金五十万円	高野昇 殿
金五十万円	匿名 殿
金三十万円	雲頂庵 殿
金十万円	大塚英雄 殿
金三万円	中村石材 殿
金一万円	大竹喜夫 殿

経蔵建立寄附

金十万円 大塚英雄 殿

ありがとうございました

*大変貴重な御寄付をありがとうございます。周囲の再開発が予定される中、龍源寺を地域の文化資源の一つと考え、引き続き境内整備に力を注いでまいりたいと思えます。また、坐禅会、企業研修、法話会などの教化活動にも力を入れていきたいと思えます。未熟者ですが、今後とも宜しくお願ひ申し上げます。(信樹)

大般若会(お正月の祈禱法要)

左の通り行ないます。ご家族そろってお参りください。

一、一月五日(土曜日・午前十一時より)

一、読経

一、法話

※駐車場はありません。南北線をご利用ください。

龍源寺への交通の便(地下鉄)

- 都営三田線(目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分)
- 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

龍源寺への交通の便(都バス)

- 田87 渋谷駅—田町駅 魚ラン坂下車
- 都06 渋谷駅—新橋駅 古川橋下車
- 品97 品川駅—新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車
- 反96 五反田駅—品川駅—六本木ヒルズ(循環) 魚ラン坂下・古川橋下車
- 東98 東京駅丸の内南口—目黒駅 魚ラン坂下車

龍源寺エレベーター増築・改修工事



旧玄関ホール

写真提供
株式会社 丸西



旧応接室

写真提供
株式会社 丸西



改修後の玄関ホール



改修後の応接スペース
(もとは居室部分でした)



改修後の玄関ホール



応接スペースからの眺め



柳 緑
花 紅

明けましておめでとうござい
ます。本堂改修工事、エレベ
ーター増設工事に関して、多
大な御寄付をいただきました
こと、厚く御礼申し上げます。

階段を使わず、本堂に行けますので、安
心して御来山いただきたいと思います。
玄関にはスロープも併設されています。
檀信徒の皆さまと、先代住職が建てた本
堂を今後とも大切にしていきたいと思
います。▼今年も引き続き、坐禅会、社員
研修、法話会等に力を入れていきたいと
思います。四月十一日から二十七日頃ま
で、九州に巡教ででかけます。恐らく、
お檀家さまの中でも、地元のお寺さんか
ら龍源寺を紹介していただいたという方
もいらつしやると思います。もしかしたら、
泰道和尚や哲明和尚が巡教でお世話にな
ったお寺さんなのかもしれません。法要
の日程の件でご迷惑をお掛け致します。
宜しくお願い申し上げます。▼千葉県の
マザー牧場に隣接する佛母寺で住職をし
ている弟の覚樹和尚は、アスコム社より
『心配事がスッと消える禅の習慣』という

本を出版しました。本の帯を読みますと、
ニューヨークで話題の禅僧だそうです。日
本とアメリカを行ったり来たりしています。
もう一人の横浜市戸塚で正福寺の住職を
している行樹和尚は、布教師として色々
などころでお話しをしています。彼の後
ろ姿を見ますと、哲明和尚に似てきたな
と最近感じています。男兄弟のため、あ
まり会話はありませんが、弟二人には、
折に触れて気遣ってもらっています。母は、
民政委員、茶道の先生と忙しくしており
ます。十二月に宝島社刊『素敵なあの人
のシングルライフ』に母の記事が掲載さ
れました。六十歳からの心が豊かになる
ひとり暮らしをテーマに取材をうけまし
た。ご縁がございましたら、お目通しく
ださい。妻の亜矢は、育児に追われなが
らお寺の仕事をしてくれています。会社
での仕事を熱心に行っていた姿から母にな
っていく姿を目の当たりにしました。娘
の瑞樹は四月から幼稚園のプレスクール
に入園することとなりました。いいお友
達との出会いがあるといいなと思っていま
す。言葉もすごい勢いで覚えていきます。▼

病院からの流れで決まってしまうケースが
多いようです。お檀家さまで、お葬式を
だされる場合、信頼のある葬儀社を紹介
させて頂いていただきます。病院で臨終の際、
まず、一番はじめに龍源寺か深夜でした
ら「あおば葬祭」〇三・五七二二・七六
五一（東京都目黒区下目黒五・七・一）
にお電話を入れていただきたいと思いま
す。丁寧なお仕事で、皆さまに大変喜ば
れています。葬儀、家族葬、密葬など気
軽にご相談下さい。生前のご相談も受け
付けています。また、龍源寺の規則をお
守りいただける方でしたら、どなたでも
使用できる合同船という合同墓地がござ
います。墓地の継承者を気にする事がな
いため、相談にみえられる方が多いです。
▼一月五日の大本般若会で読む『大本般若
の経典は写経会の皆さまの手書きの写経
によるものです。修行僧である平林寺の
雲水さんと若手の和尚さんの気迫のこも
った声で、お経の力を借りて悪いものを
吹き飛ばしていきたいと思えます。一月
五日午前十一時より大本般若会を厳修致し
ます。ご家族でお参りください。（信樹）